

番号	56	名称	常盤橋
指定日	平成 19 年 3 月 28 日	所在地	大手町二丁目～中央区日本橋本石町一丁目（日本橋川）
設計者		竣工	昭和元年（1926）



歴史・文化的特徴

震災復興事業で大手町と日本橋本石町をつなぐ重要な路線として架橋された。上流の旧常磐橋を架け替えることなく保存し、新橋の設置となった。

意匠・構造の特徴

2連鉄筋コンクリートアーチ橋に石貼りとして、重厚なデザインとなっている。

橋灯を組み込んだアールデコ調の親柱、小アーチをくりぬいた高欄等、モダニズムの影響を感じさせるデザインである。

上流の旧常磐橋と意匠的な調和が図られている。

周辺景観との関係

歩行者の視線からは親柱、高欄など重厚な意匠が目に入る。首都高速道路の高架が圧迫感を感じさせる。

周辺から橋梁の全景を良く見る事ができるが、高架橋柱が視界を遮っている。

水面からは2連アーチが印象的に見えるが、高架橋柱が視界を遮っている。

日本銀行本店など石造風の建物が多く、調和した景観を形成している。

日本橋地区への入口として交通量が多い。